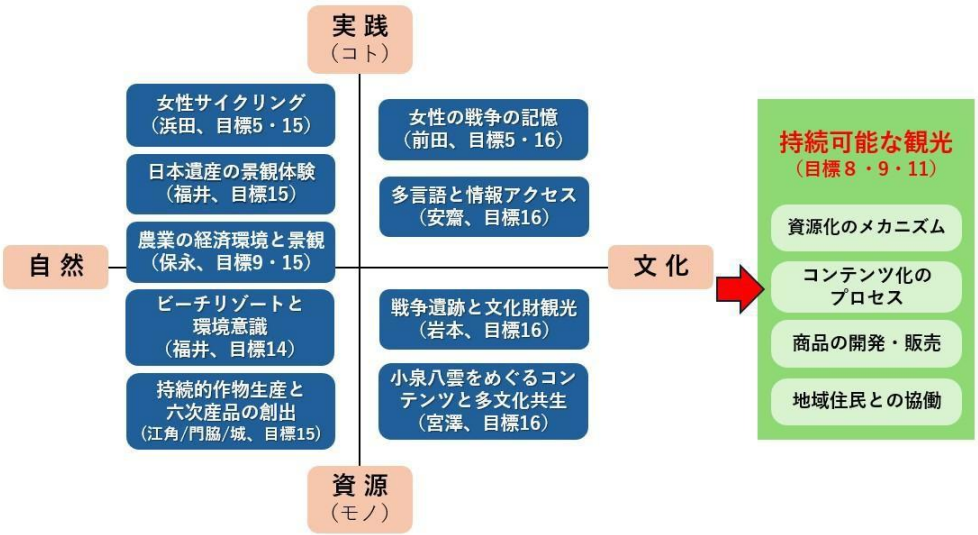
プロジェクト名	持続可能なツーリズムに関する学際的研究：新たな観光コンテンツの創出
代　表　者	法文学部・教授・福井栄二郎
達成に資するSDGs　目標	「5　ジェンダー平等を実現しよう」 「8　働きがいも経済成長も」 「9　産業と技術革新の基盤をつくろう」 「11　住み続けられるまちづくりを」 「14　海の豊かさを守ろう」 「15　陸の豊かさも守ろう」 「16　平和と公正をすべての人に」
プロジェクトの意義、成果及び波及効果	**【背景】** コロナ収束後、観光は急速に回復し、地域経済を支える基幹産業として再び注目されている。観光は自然環境や文化資源を直接的に利用・消費する産業であり、そのあり方は地域の持続可能性に大きな影響を与える。一方で、環境負荷の増大、オーバーツーリズム、多言語対応の不備による観光弱者の排除など、持続可能性に関わる課題が顕在化している。とりわけ山陰地域のような産業基盤の限られた地域においては、観光は単なる交流人口の増加ではなく、地域資源を活かした持続的な価値創出の仕組みとして再設計される必要がある。したがって、**「どのように観光コンテンツを創出するか」は、地域の存続に直結する喫緊の課題**である。 **【目的】** **本研究は「自然／文化」と「実践／資源」という二軸からなる四象限モデルを理論的枠組とし、多様な地域資源が観光コンテンツとして生成・再編されるプロセスを学際的に解明することを目的とする**。具体的には、自然景観や農業、戦争遺跡、言語景観、文化表象などの資源が、人々の移動・体験・語りといった実践を通じてどのように意味づけられ、新たな観光価値へと転換されるのかを明らかにする。それによって**観光が資源を消費するだけでなく、その価値を持続的に再生産しうる仕組みを解明することを目指す**。さらに、各象限に位置づけられる 9 つの事例研究を統合し、地域住民・行政・観光事業者との協働のもと、環境負荷を抑えつつ経済的価値と社会的包摂を両立する観光コンテンツ創出の具体的手法を提示する。  **【役割分担と SDGs との関連性】** 本研究は「持続可能な観光」が、これからの地域社会の生活を支える重要な基幹産業であることを前提に（目標 8、目標 9、目標 11）、以下の個別のテーマを設定する。 ● 浜田…女性サイクリングの景観受容（目標 5、目標 15） ● 福井…「日本遺産」認定と景観観光（目標 15）

<table>
<tr><td></td><td>

保永…発展途上国の農業ビジネスの経済環境と景観（目標 15、9）
福井…ヴァヌアツのビーチリゾートと環境保全（目標 14）
江角・城・門脇…持続的作物生産と六次産品の創出と観光活用（目標 15）
前田…旧ソ連女性の戦争の記憶とダークツーリズム（目標 5、目標 16）
安齋…観光的公共空間における言語景観と情報アクセス（目標 16）
岩本…戦争遺跡にみる文化財活用と観光（目標 16）
宮澤…小泉八雲コンテンツにおける異文化表象と共生（目標 16）

観光は自然・文化・経済・社会を横断する活動であるため、複数の SDGs に同時に作用する。具体的には、自然資源の持続的活用と環境保全（目標 14・15）、地域産業の活性化と雇用創出（目標 8・9・11）、多言語対応やジェンダー視点の導入による包摂的社会の実現（目標 5・16）に貢献する。また、戦争記憶や文化資源の継承を観光と接続することで、平和教育と地域理解の深化を促進する（目標 16）。
【意義】
本研究の意義は、観光コンテンツの生成を「資源の発見」ではなく「資源×実践の相互作用」として捉え直す点にある。従来は個別に論じられてきた自然・文化・産業・記憶・言語などを、四象限モデルによって統合的に分析することで、観光がいかに価値を生み出すのかを可視化する。これにより、観光を環境負荷の要因としてではなく、持続可能性を促進する手段となりうることを示すことができる。つまり地域資源を単に消費する観光から、地域の価値を高め、持続的に創出する新たな観光モデルを提示し、政策・教育・実務に応用可能な実践的知見を提供する。
【成果および波及効果】
本研究は、観光コンテンツや六次産品等の開発など、社会実装モデルを創出することで、SDGs の複数目標を横断的に実現する点に特徴がある。つまり、観光を「問題」から「解決手段」へと転換する具体的方策を提示することができる。
また本研究を本学の授業「観光演習」「観光実践」などと連動させる。地域課題を実践的学習で学ぶことで、将来、地域で活躍する観光人材を育成することが可能となる。
加えて本研究は、島根県立大との連携、国立民族学博物館共同研究会「観光人類学 3.0」、法文学部基幹プロジェクト「モビリティ研究」、本学じげおこし PJ（出雲市）と提携し、産官学連携のより学際的な研究を目指す。その成果は学術論文や学会発表だけでなく、シンポジウム等で広く社会に還元する。
</td></tr>
<tr><td>実 施 体 制</td><td colspan="2">
<table>
<tr><th>担当部局名・職名・氏名</th><th>役割</th></tr>
<tr><td>法文学部・教授・福井栄二郎</td><td>統括・「自然×資源・実践」の調査・理論</td></tr>
<tr><td>法文学部・教授・安齋有紀</td><td>「文化×実践」の調査・理論構築</td></tr>
<tr><td>法文学部・准教授・岩本崇</td><td>「文化×資源」の調査・理論構築</td></tr>
<tr><td>法文学部・准教授・浜田幸絵</td><td>「自然×実践」の調査・理論構築</td></tr>
<tr><td>法文学部・准教授・前田しほ</td><td>「文化×実践」の調査・理論構築</td></tr>
<tr><td>法文学部・准教授・宮澤文雄</td><td>「文化×資源」の調査・理論構築</td></tr>
<tr><td>生物資源科学部・教授・江角智也</td><td>「自然×資源」の調査・理論構築</td></tr>
<tr><td>生物資源科学部・准教授・保永展利</td><td>「自然×資源・実践」の調査・理論構築</td></tr>
<tr><td>生物資源科学部・准教授・門脇正行</td><td>「自然×資源」の調査・理論構築</td></tr>
<tr><td>生物資源科学部・助教・城惣吉</td><td>「自然×資源」の調査・理論構築</td></tr>
<tr><td>生物資源科学部・名誉教授・佐藤利夫</td><td>アドバイザー</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>